

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」  
推進校実践報告書

- 1 学校名：浜松市立西小学校
- 2 実施日時：2019年9月20日（金）9：25-10：10
- 3 対象：生徒64名（6年生）
- 4 派遣講師：大野木 龍太郎氏（浜松学院大学 教授）
- 5 授業内容：英語のオリンピックを題材にした単元に向けた講話

2019年9月20日（金）に、浜松市立西小学校にて、浜松学院大学教授の大野木氏による、オリンピック・パラリンピック教育の講話が行われました。

本校では、日頃から英語教育に力を入れており、6年生が近々英語の単元でオリンピックについて学ぶ予定であるため、その導入として近隣大学である浜松学院大学と連携し、大学教授による専門的知識を活用したオリンピック・パラリンピック教育を行いました。

授業の冒頭では、西小学校の先生が浜松学院大学の先生の大野木氏の経歴等について子どもたちに紹介をされ、普段とは違う雰囲気で行われる授業に、子どもたちは興味津々の様子でした。まず、「オリンピックのシンボルマークは何を表現しているでしょう」といったクイズ形式で授業が始まり、ワークシートや画像などを多く使用して授業が展開されたため、子どもたちも強く興味を抱いたようでした。大野木氏からの「第1回大会からあった競技は？」「2020年の東京オリンピックで新たに加わった競技は？」というクイズには、まわりの仲間と意見を出し合ったりして、多くの子どもたちが元気よく挙手をし、積極的に発言をしていました。第1回のアテネ大会では、体操競技はマットなどを使用せず外でやっていたことや、水泳はプールではなく海を泳いでいたといった大会の歴史を聞いた子どもたちからは、その度に「全然知らなかった」「種目も競技の仕方も今と全然違う」といった驚きの声が上がっていました。

また、大野木氏は、オリンピック・パラリンピックの輝かしい歴史だけではなく、戦争によってオリンピックに参加できなかった年もあったことや、オリンピックとパラリンピックではメディアでの取り上げられ方に差があることなど、様々な側面についても話をされました。今まで楽しく授業を聞いていた子どもたちでしたが、まだまだ残されている課題も大いにあるということを知り、考えを巡らせている様子でした。

最後に、大野木氏からは、「AIの発達が目覚ましい今日だが、人間の努力によって成し遂げるからこそ大きな影響力をもたらすものもある。人間同士で争うのではなく、スポーツを通じて互いに高め合える関係や、いろいろな人を受け入れることができるインクルーシブな社会を築いてほしい」と、未来を担っていく子どもたちへメッセージを送っていただきました。また、クーベルタンの言葉を引用し、「勝つことだけが素晴らしいのではなく、努力することや参加することに大きな意味がある。今後いろいろなことに挑戦していけるような人になってください。」という言葉も贈っていただきました。

## 6 実践の様子



浜松学院大学 大野木教授



授業冒頭での大野木氏の紹介



映像を使用した授業の様子



ワークシートを活用した授業の様子



ワークシートへ考えを記入している様子



講義の様子



子どもたちへヒントを出す大野木氏



積極的に挙手をする子どもたち